

Ⅲ 抑留者の管理の実態

問25 自分が収容された最初の収容所の抑留者の人数

	<人数>	<%>
1 300人以下	419	13.6
2 301人～500人	628	20.4
3 501人～700人	319	10.3
4 701人～1000人	749	24.3
5 1001人～1500人	452	14.7
6 1501人～2000人	204	6.6
7 2001人以上	203	6.6
8 未記入	111	3.5
	計 3,085	100.0

問26 自分が最初に収容された収容所の形態

	〈人数〉	〈%〉
1 従来から建っていた建物……………	2,237	72.5
2 自分たちが作った丸太組の建物……………	351	11.4
3 自分たちが作った半地下式の建物(ゼムリヤンカ)…	171	5.5
4 天幕(幕舎)……………	308	10.0
5 繫留船舶……………	10	0.3
6 その他……………	8	0.3
	計 3,085	100.0

問25・26のまとめ

収容所の規模は収容人員300人以下から2,000人以上と多岐にわたっているが、規模別では701～1,000人程度に集中している。(24.3%)

最初に収容された収容所の形態は従来から建っていた建物が主体(72.5%)であるが、施設・構造等は耐寒・耐暑に不十分であった。(問40の7のイ—81.3%)

収容所が不足する場合は、自分たちで作った丸太組の建物や幕舎での生活を余儀なくされた。(26.9%)

問27 健康診断は行われましたか

	〈人数〉	〈%〉
1 定期的に行われた……………	534	17.3
2 不定期ながら行われた……………	1,740	56.4
3 行われなかった……………	642	20.8
4 その他……………	169	5.5
	計 3,085	100.0

問28 問27で1に○をつけられた方は、

次のうち該当する番号を○で囲んでください

	<人数>	<%>
1 1か月に1回.....	299	56.0
2 2か月に1回.....	151	28.3
3 3か月に1回.....	65	12.2
4 4か月に1回.....	11	2.1
5 その他.....	8	1.4
	計 534	100.0

問29 問27で1、2に○をつけられた方は、下記に○をつけてください

1 健康診断は何年頃から実施されるようになりましたか

	《人数》	《%》
イ 昭和20年	275	12.1
ロ 昭和21年	1,319	58.0
ハ 昭和22年	564	24.8
ニ 昭和23年	102	4.5
ホ 昭和24年	11	0.5
へ 未回答	3	0.1
	計 2,274	100.0

2 健康診断は誰が実施しましたか（複数回答）

	《人数》	《%》
イ ソ連人医師	2,196	96.6
ロ 日本人医師	600	26.4
ハ その他	37	1.6
	計 2,833	

3 健康診断はどのように行われましたか（複数回答）

	《人数》	《%》
イ 医療器具による	245	10.8
ロ 触診による	1,531	67.3
ハ 外見による	1,073	47.2
ニ その他	23	1.0
	計 2,872	

4 健康診断の結果、どのように処置されましたか (複数回答)

	<人数>	<%>
イ 等級分けして処置された……………	1,327	58.4
ロ 等級分けされたが特別な処置はされなかった……	550	24.2
ハ 等級分けもされなかった……………	400	17.6
ニ その他……………	60	2.6
	計 2,337	

問30 健康維持のため収容所内で特別なことが実施されましたか

	<人数>	<%>
1 実施された.....	577	18.7
2 何も行われなかった.....	2,508	81.3
	計 3,085	100.0

問31 問30で1に○をつけられた方は具体的な内容を記入してください

(複数回答)

	<人数>	<%>
1 松葉汁を飲まされた……………	262	45.4
2 ドロージ、クワス等の飲料……………	40	6.9
3 熱気消毒・下着交換……………	74	12.8
4 体操……………	90	15.6
5 演劇……………	2	0.3
6 その他……………	146	25.3
	計 614	

問27・28・29・30・31のまとめ

健康診断は形式的ではあるが、不定期をも含めて73.7%が実施されている。

そのうち2か月に一回以上の定期的診断は84.3%となっている。健康診断は昭和21年以降から軌道にのり、主にソ連人医師により実施されたが、診療器具はなく、ほとんどが触診や外見的判断(90.7%)によるものである。

診断の結果については一応等級別区分をしているが(56.8%)、その区分に適應する措置は行われておらず、健康維持のための具体的処置は行われていない(81.3%)。

さらに一部の者について実施された(18.7%)健康維持の具体的な内容をみても、松葉汁やドロージ(ヨーグルトのようなもの)、クワス(清涼飲料)等を飲む等の原始的な対応に終始している。

問32 抑留中に病気（凍傷を含む）にかかったことがありますか

	<人数>	<%>
1 ある.....	1,722	55.8
2 ない.....	1,363	44.2
	計 3,085	100.0

問33 問32で1に○をつけられた方は病名を記入してください

(複数回答)

	<人数>	<%>
1 発熱.....	286	16.6
2 チフス等伝染病.....	203	11.8
3 胸の病気.....	130	7.5
4 胃腸.....	206	12.0
5 盲腸.....	27	1.6
6 凍傷.....	410	23.8
イ 顔.....	24	
ロ 足.....	318	
ハ 手.....	68	
7 栄養失調.....	325	18.9
8 皮膚病.....	25	1.5
9 脚気.....	21	1.2
10 その他.....	384	22.3
	計 2,017	

問34 病気の際どのように処置されましたか

(複数回答)

	〈人数〉	〈%〉
1 入院	564	32.8
2 入室	361	21.0
3 作業休み	608	35.3
4 作業継続	314	18.2
5 その他	48	2.8

計 1,895

問32・33・34のまとめ

多くの者が病気にかかっている。(55.8%)

病気をみると、凍傷、栄養失調、発熱、チフス等の伝染病等 (71.0%)

自己の注意力では防ぎきれないものが多い。

これは、設問40の衣、食、住にみられるように、

- ① 着衣等の衣服類は、季節による取替えがない。(54.5%)
- ② 厳寒時の防寒衣服は、不十分であった。(84.6%)
- ③ 食事は、質、量ともに不十分であった。(質82.6%、量81.8%)
- ④ 収容所の施設、構造は、耐寒、耐暑に不十分であった。(81.3%)

等厳しい労働環境によるものと思われる。

病気に対する処置としては、病気の性質上、入院、入室、及び作業の休み等 (89.0%) が多くなっている。

問35 抑留中に怪我をしたことがありますか

	<人数>	<%>
1 ある.....	798	25.9
2 ない.....	2,287	74.1
	計 3,085	100.0

問36 問35で1に○をつけられた方は怪我の箇所、程度を記入してください

(複数回答)

(単位：名)

	頭	足	手	体	計
1 裂 傷	40	131	148	6	325
2 打 撲	38	173	61	81	353
3 骨 折	…	64	29	20	113
4 そ の 他	…	…	…	…	75
計	…	…	…	…	866

問37 怪我の際どのように処置されましたか

(複数回答)

	<人数>	<%>
1 入院	142	17.8
2 入室	131	16.4
3 作業休み	384	48.1
4 作業継続	205	25.7
5 その他	9	1.1
	計 871	

問35・36・37のまとめ

抑留中怪我をした者は1/3以下で、病気に比較して少ない。

これは、病気と異なり、本人の注意力により、ある程度は避けうることによるものと思われる。

怪我の内容は、裂傷、打撲がほとんどである。(85.0%)

怪我の処置については、作業休みが多く(48.1%)入院、入室は34.2%で、病気に比較して少なくなっている。

問38 死亡者の埋葬に従事したり、見たりしたことがありますか

	〈人数〉	〈%〉
1 ある	1,331	43.1
2 ない	1,754	56.9
	計 3,085	100.0

問39 問38で1に○をつけられた方は、下記に○をつけてください

1 埋葬について (複数回答)

	〈人数〉
イ 一体づつ埋葬された	726
ロ 数体一緒に埋葬された	551
ハ その他	63
計	1,340

その他の中に数体まとめてアムール川に流したというのもあった。

2 墓標について

イ 建てられた	463
ロ 建てられなかった	761
ハ その他	107
計	1,331

3 埋葬地名・埋葬者数について

埋葬者数は、回答者の報告をそのまま計上してある。

地 区	地 名	埋葬者数
ハバロフスク地方	ムーリー地区	100名
	—	100
	—	1
	—	15~20
	—	600
	—	800
	ソフガワニ第2収容所	70

地 区	地 名	埋葬者数
ハバロフスク地方	カリムスカヤの山中	1
	ハバロフスク付近のシマコーフ	
	カ採草地	15
	——	1
	エボロン301収容所	100
	——	1
	ホルモリン地区217分所	15
	——	1
	モシカ	20
	コムソモリスク	30
	——	20
	——	数千
	コムソモリスク第2収容所	140
	〃 第4収容所	10~20
	〃 第5収容所	6
	——	150
	——	1,000
	〃 第6収容所	30
	ハバロフスク	30
	——	20
	——	100
	ネーブルスカヤ	50~70
	バルボン	400
第217収容所付近	1	
ロンドコ	600	
クレドール第105収容所	500	
ソビエッカヤバニ	200	

地 区	地 名	埋葬者数
ハバロフスク地方	アクサカ	2
クラスノヤルスク地方	クラスノヤルスク	3
	—	500以上
	ク 第3収容所	20～30
	—	313
	アバカン地区ソン収容所	45
沿海地方	ウラジオストック収容所	2
	タウリチャンカ第10収容所	20
	スーチャン地区収容所	1
	ウオロシーロフ	2
	—	50
	—	60
	—	300
	ク ブヤスキ第15収容所	60
	ナホトカ・ニコライエフスク	5
	—	5
	セミヨノフカ	20
	セミヨノフカ病院	150～200
	—	400
	スイソエフカ	3
	—	50～60
	イマン地区	20
	アルチョム郊外2K	160
	—	150
	アルチョム病院	500～700
	マンゾフカ	11
	タウリチャンカ	6

地 区	地 名	埋葬者数	
沿海地方	ムラベーカー第7収容所	30	
	ハラザ	150	
	——	80	
	パボロフカの町はずれ	40	
	〃 の山中	89	
	マラザ収容所	5	
	マチベフカ	30	
	タバヘサリ墓地	300	
	クラスキー郊外	1	
	アムール州	スコボロジーノ	20～30
——		96	
——		300	
——		150	
ブラゴエシチェンスク		2	
ウヤッカ		250	
ライチハ収容所		10	
〃 第19地区		8	
イズベストコーワヤ地区		78	
アムールツウ収容所		118	
ザビタヤ		100	
アロチカ墓地		13	
ブレヤー墓地		6	
マガダン州		マガダン	2
ケーメルボ州		ロストフカ	20
	——	50	
	バルナウル	300	
	——	1	

地 区	地 名	埋葬者数
ケーメルボ州	ピースク	63
	—	500
	レーニンスク	数十名
チタ州	チタ	481
	—	500
	チタ地区モロドイ	200
	℥ ブカチャチャ	10
	℥ —	400
	℥ —	640
	℥ —	745
	チタ地区シキワより4kの山中	60
	℥ フーシंगा	270
	バレー収容所	50
	チタ地区シルローワ	428
	℥ 第24収容所	500
	℥ ハラゲン	336
	℥ ハタブラーク	492
	℥ ジブヘーゲン	5~6
ヒロク地区	60	
ペトロパロフスカ	1	
アルタイ地方	アルタイスカヤ	6
	—	300
カザフ共和国	フジサイ	5
	カラガンダ	2
	℥ 第8収容所	15
	℥ —	40
	℥ 第11収容所	3

地 区	地 名	埋葬者数
カザフ共和国	東カザフスタン	125
	パフタアル	1
	アルマータ	20
	——	30
	——	6
ブリヤート自治共和国	シヤブール	750
	ウラウンデ	3
	——	52
ウクライナ共和国	スラビヤンスク収容所	1
ウズベク共和国	アングレン	50
	——	133
	——	500
	タシケント	2
	ク 360収容所 (サマルカンド収容所より5 km)	1
モンゴル	ウランバートル	750
イルクーツク州	チェレンホーボー	200
	——	300
	マカリオ	300
	イルクーツク	200
	——	3
	——	4~5
	——	284
	マリタ (マルタ)	210
	ボウエンキ	50
タイシェット	3	
ク ——	3	

地 区	地 名	埋葬者数
イルターツク州	ク —	25
	ク —	30~50
	ク 第5収容所	10
	ク 第22収容所	30
	ク —	80
	タイシェット —	150
	ク 54K地区	10
	ク 56K地区	4~5
	ク 120K地区	50
	ク 167K地区	50
	ク 第7病院	1,000
	ネーベルスカヤ	16
	ブラーツク	4~5
	バイカル湖	数十名
クピトーク収容所	1,700	
モスクワ付近	マルシャンスク収容所の裏山	18
	朝 鮮 古茂山病院	1,400
	三 合 里	2
	—	200
満 州 樺 太 地区不明	—	1,000
	富 寧	十数名
	牡 丹 江	1
	古 屯	1
	フーセンガ	350
	ダバンダ	2
	ナリム	320
—	300	

地 区	地 名	埋葬者数
地区不明	オールミユル	40
	ダウエンダ	50
	アムラルト病院	5
	ベラソフカ	200
	——	300
	テノキス	100
	ジャンプー (カラタオ)	7
	ポダルブイハ	6~7
	フタロエツヤス	50~60
	ハルタイ山中	400
	キリトマシャート	4
	M C S ガリンソン	3
	ボルトイ	14
	タイヨウフカ森林地	20
	ノーニコリスク	100
	チエッキリー	3
	チパリ	200~300
	第1トルム炭坑南東2 km	50
	ベヤジムスカヤ	2
	ドニエプロトフスク	35
	チエルノスカヤ収容所	30
	ウオフルカ収容所	1
	ノーバヤ収容所	1,000
	ウラル・ポレーチェイ収容所	3
	プシキノ収容所	150
	カメノスカ	10
	ルウチキ	104

地 区	地 名	埋葬者数
地区不明	バーキアムグリーン413	1
	ハラジブロン収容所	400
	カウリ（ウスリー～シマコフカの間）	8

裸のまま埋葬され、あわれである。

凍土で穴掘りに苦勞した。

夏は裏山に埋め、冬は狼に喰われ無残であった。

動物の埋葬のようであった。

多数の死者（500人）の發生に恐怖を感じた。

明日は我が身と嘆くのみ。

問40 衣、食、住について

	〈人数〉	〈%〉
<u>1 着衣等衣服類は季節により、取替えがありましたか</u>		
イ なかった	1,680	54.5
ロ あった	1,324	42.9
ハ その他	81	2.6
	計 3,085	100.0
<u>2 厳寒時の防寒衣服は充分でしたか</u>		
イ 不十分であった	2,609	84.6
ロ 充分であった	370	12.0
ハ その他	106	3.4
	計 3,085	100.0
<u>3 衣服の補修はどのようにされましたか</u>		
イ 個人で補修した	2,534	82.1
ロ 収容所内で専門的に補修した	407	13.2
ハ その他	144	4.7
	計 3,085	100.0
<u>4 食事の質は充分でしたか</u>		
イ 帰還するまで不十分であった	2,547	82.6
ロ 途中から充分になった	451	14.6
ハ 最初から充分であった	43	1.4
ニ その他	44	1.4
	計 3,085	100.0
<u>5 食事の量は充分でしたか</u>		
イ 帰還するまで不十分であった	2,522	81.8

ロ	途中から充分になった	467	15.1
ハ	最初から充分であった	30	1.0
ニ	その他	66	2.1
	計	3,085	100.0

4-ロ、4-ハ、5-ロ、5-ハの回答をした人たちの大部分が農作業又は石炭鉱石の採掘作業に従事している。

6 入所当時の食事の内容を具体的にお書きください

(単位：名)

種 類	人 数	種 類	人 数
黒 パ ン	1,745	魚	211
米 飯	102	野 菜	533
雑 炊	617	雑 穀	507
ス ー プ	1,232	そ の 他	520
肉	65	計	5,532

7 収容所の施設・構造は、耐寒・耐暑に充分でしたか

イ	不十分であった	2,509	81.3
ロ	充分であった	376	12.2
ハ	その他	21	0.7
ニ	未記入	179	5.8
	計	3,085	100.0

問41 労役の間に休日は与えられましたか

	<人数>	<%>
1 与えられなかった	1,252	40.6
2 与えられた	1,833	59.4
	計 3,085	100.0

問42 問41で2に○をつけられた方は下記に○をつけてください

		<人数>	<%>
1	1週間に1日	1,050	57.3
2	2週間に1日	447	24.4
3	3週間に1日	126	6.9
4	1月に1回	210	11.4
	計	1,833	100.0

(参考までに、休日はどのように過ごされましたか)

(複数回答)

(単位：名)

休 養	796
娛 楽(囲碁・将棋・マージャン)	75
スポーツ	14
読 書	4
思 索(思い出)	25
細工物の工作	8
民主運動	57
演劇活動	76
その他	463
計	1,518

その他の中には洗濯、衣服の繕いが多かった。

問43 民主運動（思想教育）について下記にお答えください

	〈人数〉	〈%〉
1 進んで参加した	86	2.8
2 強制されたので参加した	907	29.4
3 帰国条件を良くすると思って参加した	1,212	39.3
4 参加しなかった	709	23.0
5 その他	171	5.5
	計 3,085	100.0

民主運動に進んで参加した者は86名（2.8％）と少数であるが、強制されたり、帰国条件を良くするために参加した者等を合算すると、71.5％の者が民主運動に参加している。

問44 問43で1～3に○をつけられた方は下記に○をつけてください

	〈人数〉	〈%〉
1 思想的に大いに影響を受けた	200	9.1
2 思想的に少し影響を受けた	653	29.6
3 思想的に影響を受けなかった	1,296	58.8
4 その他	56	2.5
	計 2,205	100.0

多くの者が民主運動に参加したが、大部分の者は思想的影響を受けていない。(58.8%)

これは、参加の動機が本人の意思に反する強制であったり、帰国条件を良くしようとする思惑的参加によるものと解することができる。

思想的影響を受けた者が853名(38.7%)となっているが、本アンケート調査の集計過程でみる限り、具体的変化は認められない。

むしろ、問53の3(赤のレットル)にみられるように、共産主義に失望した者が多い。